

プロフィール

宮川 真人(オーボエ)

富士市出身。4歳よりピアノを始め、小・中学校では合唱部の伴奏者を務める。富士高等学校入学と同時にオーボエを始め、吹奏楽部で活躍したのち武蔵野音楽大学器楽科（オーボエ専攻）に入学する。在学中ヨーロッパ演奏旅行など数々の研鑽を積み、同大学オーボエ専攻卒業。卒業演奏会、静岡県東部地区の新人演奏会に出演。ただちにプロのオーボエ奏者として演奏活動を始める。

以来現在に至るまで、東京を拠点に全国各地のオーケストラや吹奏楽団の国内外の演奏会や録音、録画に多数出演しているほか、ソロや室内楽も積極的に行っている。

また、各地でオーボエの個人指導や講習会を催しているほか、アマチュアオーケストラ、吹奏楽団、スクールバンドの指導育成にも力を注いでいる。母校である富士高等学校吹奏楽部には1999年12月から指導に当たっており、定期演奏会で指揮をしている。

そのほか、全日本吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストの審査員、吹奏楽関連誌への執筆等、吹奏楽の分野には特に深く携わっている。

さらに2015年度より2年間、東京音楽大学指揮科聴講生となり、本格的に指揮を学んだ。

オーボエを虎谷迦悦、吉成行蔵、インゴ・ゴリツキの各氏に、室内楽をインゴ・ゴリツキ、ローランド・スモールの両氏に、指揮法を広上淳一、田代俊文の両氏に師事。

ダブルリードアンサンブル「エスプレッソ」メンバー。日本オーボエ協会常務理事 企画局長。